

レファレンス
余話

図書館に寄せられるレファレンスに、図版に関するものがある。テレビ・映画・出版等マスコミからのクイック・レファレンスの場合が多い。江戸時代の地震の図などという同じパターンで繰り返されるものもあるが、大方は多種多様である。これに対処するのに、肖像索引等の検索ツールのあるものや、当今流行の図説ものの多い分野はまだよい。が、不特定多数の龐大な資料の山から探し出さねばならない時は、急ぐまに周辺のヴェテラン諸氏の協力を得ることもある。さしずめ、生コンピュータの稼動である。何でもコンピュータの時代である。またく他の多くの利用者へのサービスに影響をおよぼすような多大な時間と労力を要する質問とみなされる場合はレファレンスの域をこえるものとなる。

ところで、この種の図版のレファレンスの際に、時としてつぎのようなケースに出会うことがある。

ある日、電気の手T社の社内報編集者が来室して「田中久重が作成した蒸気による大砲の図がないか」という。既に写真があり、それは当館所蔵の図を写したものだといひ添えてきた。つまり原図が当館にある筈だと確信してそれを見たいというご希望である。

早速、題名を推定して蔵書目録各種を検索するが見当らない。『国書総目録』は一枚物を載せていないし……。児童向伝記書『からくり儀右衛門』の後書きに、確か田中家の子孫の名があったがと気ばかりせく。ともかく写真を見なければと、来訪者に一先ずお引取り願ひ、先に調査を進めることにした。

例によって『日本人物文獻目録』（平凡社）から関係書を拾ひ書庫に走る。まず田中近江翁頭彰会編刊『田中近江大掾』（昭7）をめくると、その文獻欄に『蒸気砲（砲）会心録』がみえるではないか。そして巻頭掲載写真に「蒸気砲雛形設計図」もみえる。設計図の所蔵者は編述者。本文によると『蒸気砲（砲）会心録』は表紙共5枚綴りの小冊子で近江翁の口述に係る「蒸気銃略記」及蒸気砲の図とある。しかし、『国書総目録』にこの題名はなく当然当館でも所蔵していない。ひょっとすると、T社手持ちの写真はこの昭和7年版から写されたのではないか？ 漸く気がついた。翌日到着した問題の写真をみる。挿図とびったりである。設計図の紙の折り目、虫喰いのあとまでそっくり同じだ。だが果してこの本から写したか否か今一つのため押しがほしい。ちょうど傍を通られた鈴木重三課長（現司書監）に話すと、その話の終るか終らぬ中に、件の写真をじっと見ておられた顔がほころび、下方にかすかに見える丸い影を指さされたのだ。つまり、昭和7年版『田中近江大掾』に押された<帝国図書館 IMPERIAL LIBRARY>の字のみ見える直径2cmの浮出印がうっすらと写っていたのである。浮出印は図版の一枚毎に打たれているものである。これで決め手が出来、照会の図そのものは当館所蔵でないことが判明した。

このような例はこれまでに幾つかを経験した。某百科事典掲載の曲直瀬道三の肖像には国立国会図書館蔵と明記されており、或る博物館から照会されたのも一例である。これも原画、写し共当館に見当らず、判明したのは明治以降刊行資料収載図であった。（41ページへ続く）

の訓え』 アブドル・ラハマン・アザム著 鹿島平和研究所訳 東京 鹿島研究所出版会 1975 286 p マホメットの伝記：p3~33

『マホメット 預言者の国づくり』 嶋田襄平著 東京 清水書院 1975 198 p

『預言者の妻たち』 アイシャ・アブドゥラハマン著 徳増輝子訳 東京 日本サウディアラビア協会、日本クウェイト協会 1977 269 p

『イスラム教史』 嶋田襄平著 東京 山川出版社 1978 296, 30 p マホメットと「コーラン」：p22~79

『マホメット』 牧野信也著 東京 講談社 1979 441 p (人類の知的遺産 17)

『イスラーム生誕』 井筒俊彦著 京都

人文書院 1979 231 p ムハンマド伝：p[13]~110

『商業帝国原始イスラムの謎』 ハンス・ゲオルグ・ベール著 金森誠也訳 東京 佑学社 1980 247 p マホメット—預言より利潤：p 43~79

『アラ—は偉大なり マホメットの生涯』 ビルジル・ゲオルギウ著 中谷和男訳 東京 サイマル出版会 1980 264 p (1980年9月現在)

配列は刊年順

主な典拠文献

『イスラーム関係文献目録(日本語の部) 1958年7月現在』 日本オリエント学会編・刊 [東京] 1959 47, 17 p 26cm

(38ページより続き)

現在はコンプトンの Watts 画廊を経営しているが、学者として、また画家として植物挿絵の技術向上に尽してきている。彼の手による作品は十指に余るが、その中には Veitch 金賞(高名な園芸家を記念したもの)を受けた *The Art of Botanical Illustration* (1950) <当館請求記号 741.63-B659 a2> も含まれている。

同書は15世紀以降今日までの植物図鑑の流れを紹介したものだが、この様な蓄積の上に本書は成り立ったといえよう。

(参考書誌部索引課 甲斐原綾子)

(39ページより続き)

しかも、その具体的な引用書名は編集担当者の退社により追えず、当館に提出された複写許可願にも〇〇ほか〇件と一括されていたのであった。

当館蔵ならぬ当館蔵さわざではある。

(参考書誌部人文課 沢西良子)